

「第22回因州和紙あかり展」入賞作品選考審査結果

日 時 令和8年1月9日（金）

午前10時～午後3時

場 所 鳥取市あおや和紙工房

審査員長 石谷孝二氏（国画会会員・鳥取大学名誉教授）

審査員 山ノ内芳彦氏（木工・灯り作家）

審査員 川崎富美氏（プロダクトデザイナー）

審査員 井田勝己氏（彫刻家・東京造形大学名誉教授）

■総評

一般部門には県内外より36点、ジュニア部門は73点の計109点の作品が集まった。

例年以上に力作が多く集まり、見応えを感じた。LEDを光源とした作品等、和紙との可能性が感じられた。新しい光源を作品に取り込む試みなど、次の展開が楽しみである。

大賞作品は、和紙の魅力を折り方で見せ、重なりの陰影が色々な表情を見せる作品である。

準大賞、佳作の作品には、それぞれ和紙のあかりの多様性を広げる意欲作が選出された。

■一般部門 講評



大賞 [天使の囁き]

竹歳 真帆（東京都新宿区）

和紙の風合いを最大限に引き出した魅力ある作品である。平たい和紙が重なりの陰影で色々な表情をみせ、和紙の可能性を広げる作品として高い評価が得られた。



準大賞 [万亩（まひろ）]
戸田 智美（鳥取県東伯郡）

宇宙を感じさせるスケールの大きな作品である。支柱の扱いにもうひと工夫あれば、さらに上を目指せると感じた。

和紙の持つ野性味を前面に出した佳作である。

佳 作 [CALM]
湯浅 孝志（東京都板橋区）

小ぶりであるが、日本庭園を思わせる作りこまれた作品である。やわらかな光のグラデーションがきいた品格ある作品である。



佳 作 [スティックスティック]
吉澤 健太（大阪府大阪市）

小ぶりだが魅力的な作品。自然に揺れる発想がよく、細い金属に支えられた和紙の影が天井に写る様子も素敵である。

佳 作 [risuonare]
梶山 千尋 (大阪府大阪市)

ジャバラのような構造が和紙の良さを引き出しており、中の支えのスティックが丈夫でうまく収まり、完成度の高さも評価された。



佳 作 [白籠 (はくろう) に咲く]
梶山 武志 (大阪府大阪市)

台としての支柱を含め、全体の完成度が高く、卵型の形から透けて見える花びら等、造形的に斬新な作品である。

佳 作 [玉書院「鶴頭」]
原 亮朋 (広島県広島市)

確かな技術で組み立てた構造を持つ作品の中にある赤色が、ぼんやりと透け、素材を生かした魅力的な作品である。



■ジュニア部門 講評



入賞 [天の川]

松尾 心春（鳥取県米子市）

押し花で流れを作っており、デザインの意図が感じられる作品である。

入賞 [きれいなさくらがふってきた]
山田 鉄平（鳥取市立青谷小学校）

桜の木のイメージが伝わり、とてもきれいな作品になった。



入賞 [心が温まる自然]

川崎 真弥（鳥取市立青谷小学校）

白い和紙で雪だるまを表現しており、雪だるまを立体化することにより、特徴のある作品になった。



■あおや和紙工房賞（鳥取県内の応募作品対象）



入賞 [あわいの灯（ともしび）陽]
林原 滋（鳥取県東伯郡）

丁寧な作りで、台座の部分の隠れた光の使い方が美しい作品。

入賞 [lueur (リュール) ほのかな光]
諸吉 陽子（鳥取県鳥取市）

LED を光源とし、和紙の素材をうまく表現した作品。

